

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M212S202	小児看護方法論 I (Pediatric Nursing Practice I)	専門教育科目 小児看護学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	2	後期	月・3	幸松美智子・江藤千晴 内線：5075 E-mail：yukimats@

【授業の概要・到達目標】

小児期は、ヘルスプロモーション能力の育成において重要な時期である。ヘルスプロモーション能力の育成を支援するために、子どもの成長・発達を身体・運動・言語・認知・社会性といった多方面から捉えて理解を深める。また、その成長、発達に影響を及ぼす外的・内的環境を学習し、子どもの健全育成に必要な支援や親育て（育児）支援のあり方を学ぶ。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 子育て支援に対する（健全な子どもの育成）看護者の責務について述べるができる	○			○			
2. 子どもの身体諸機能の発達・成熟と生活習慣病予防に向けた基本的な生活習慣の獲得を援助する知識・技術について説明することができる	○		○	○			
3. 養育期の家族が抱える問題と支援する知識・技術について説明することができる	○		○	○	○		
4. 子どもと家族を支える社会システムと看護のコラボレーションについて説明することができる	○		○	○	○	○	○

【授業の内容】

1～2	子どもの身体諸機能の成長・成熟（成人の解剖生理と異なる特徴とは）
3	子どもの免疫系の成長・成熟と感染防止に関する（予防接種・環境整備）看護
4～5	認知発達理論に基づく子どもの理解と支援の方策
6	自我発達理論に基づく子どもの理解と支援の方策
7	子どもの清潔観・清潔行動の発達とヘルスプロモーション能力の育成としての清潔を支援する看護
8	子どもの睡眠習慣の発達とヘルスプロモーション能力の育成としての規則正しい生活を支援する看護
9～10	子どもの食習慣・食行動の発達とヘルスプロモーション能力の育成としての食事を支援する看護
11	子どもの排泄習慣・排泄行動とヘルスプロモーション能力の育成としての排泄を支援する看護

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	小テスト・アクションレポート	<ul style="list-style-type: none"> ・動画や実践事例を用い、小児についての理解を深め、子育ての知識・技術を学ぶ ・学生が意見を述べる機会を設ける
B：意見の表現・交換	○	発問、グループ検討	
C：応用志向	○	グループによる事例検討・発表	
D：知識の活用・創造	○	課題レポート（社会改革に向けた提言）	

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	次回の学習内容について配布するアクションレポートで予習する（11h）。課題レポートの発表に向けた準備（グループでの文献検討や発表準備）を行う（11h）。
事後学修	授業で学習した内容に関連したアクションレポートを用いて授業の復習をする（22h）。

【教科書】

中野綾美【編】：ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学①、メディカ出版、2022年
 中野綾美【編】：ナーシンググラフィカ 小児看護技術 小児看護学②、メディカ出版、2022年

【参考書】

その都度提示する

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4
アクションレポート・課題レポート	20%	○	○	○	○
期末試験	80%	○	○	○	○

【注意事項】 講義で配布されるアクションレポートは次の週の金曜日 17時までに提出する

【備考】

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	幸美智子（看護師） 江藤伸晴（看護師・助産師）	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無		
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容	子育て支援を専門とする看護師に必要な保育や保険の現場で聞かれる家族の不安や疑問、どのような支援が求められているかを講義の中で押さえて、子育て支援に必要な知識と技術を修得して立てる	
授業形態		